

イチオシ!

M OVIE

『イラク チグリスに浮かぶ平和』

2003年3月。大量破壊兵器の保持を口実に、バグダッド空爆から始まったイラク戦争。これまでに10万人以上の人々が命を奪われた。多くの国が支持したこの戦争は、イラクに何をもたらしたのか?ジャーナリストの綿井健陽さんは、開戦前夜から空爆、米軍による占領、宗派対立、テロに至るまで、さまざまな局面でこの国と向き合ってきた。その最中での、あるイラク人家族との出会いと別れ。彼らの“その後”を追いながら、この国の戦乱の10年を描き出す。



© ソネットエンタテインメント / 綿井健陽

2014年 / 日本 / 108分

監督: 綿井健陽

公開: 10月25日(土)よりポレポレ東中野(東京)他 全国順次公開

URL: www.peace-tigris.com/

配給: 東風

E VENT

『広島&福岡の国際協カイベントに出かけよう!』

■「国際交流・協力の日2014」

広島市内で国際交流・協力の活動を続けている市民団体や企業の紹介、メイン会場でのトークショー、異文化体験や世界の料理が楽しめる屋台など盛りだくさん!

会期: 11月16日(日) 10~16時半

会場: 広島国際会議場、平和記念公園、平和大通り緑地帯

問: 公益財団法人広島平和文化センター

TEL: 082-242-8879

■「国際協カフェスタ地球市民どんたく2014」

「こんなに身近な世界と福岡」をテーマに、福岡を拠点に世界で活動する19の団体を紹介。ワークショップの他、民芸品や飲食物の販売もあり、楽しみながら国際協カを学べる!

会期: 11月15日(土)、16日(日) 11~17時

会場: アクロス福岡

問: 地球市民どんたく実行委員会事務局

TEL: 092-733-5630

URL: chikyushimin.jimdo.com/

B OOK

『アフガニスタン ぼくと山の学校』

アフガニスタン北部、標高3,000メートルに近い山あい、この国では珍しい男女共学の学校があった。著者で写真家の長倉洋海さんは、ここに13年間にわたり通い続けてきた。最初は机もいすもなく、床に座って黒板を必死に見上げていた子どもたち。水をくみ、羊を追い、家族を助けて働きながら、「女性弁護士になってアフガニスタンを変えたい」「医者になって村の人たちを助けたい」と夢を語る。彼らは、長い戦争で傷ついたこの国の希望なのだ。子どもたちの成長を写真と共に収めた一冊。



長倉洋海 著
かもがわ出版
2,160円(税込)

この本を
1人の方に
プレゼント
詳細は
38ページへ

B OOK

『南国港町おばちゃん信金 「支援」って何? “おまけ組” 共生コミュニティの創り方』

“南国港町”とは、南インドのビジャカバトナムのこと。岐阜県の国際協カNGOに勤めていた筆者は、ここでスラム街の女性たちと一緒に信用金庫をつくることに。ただ、本書につづられているのは、よくある体験談とは一味違う。国際協カやNGOと聞くと、「立派」「何だか善いこと」といったイメージがあるが、著者が思い出すのも恥ずかしいという失敗話も詰め込まれている。南インドのおばちゃんたちと怒鳴り合い、笑い、泣いた“おばちゃん”の言葉から、本当に必要とされている支援の在り方を見つめ直すことができる。



原康子 著
新評論
1,944円(税込)

この本を
1人の方に
プレゼント
詳細は
38ページへ